

令和5年度「将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たななまちづくり形成事業」
オホーツク文化を核とした「オホーツク遺跡街道」構想事業報告書（概要版）

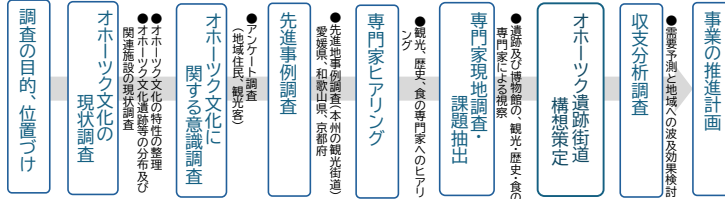
本業務の目的

オホーツク文化は、今から千年以上も昔にオホーツク海沿岸を中心とする北海道の北・東海岸、樺太、南千島の沿海部で栄えた海獣狩猟民族（オホーツク文化人と呼ばれる）の文化である。この文化は、豊かな食生活や熊・シヤチを大切に祀る独特の自然観、家畜の飼育、特有の文様の見られる土器の作成、大陸との交易の形跡、ある一定の時期にのみこの地域を中心に存在した希少性などの様々な特徴があり、他の地域には見られない、この地域のアイデンティティを象徴する、未来に継承すべき貴重な歴史遺産と考えられる。

自然と共生していたオホーツク文化人の習慣や食文化を後世にわたって引き継ぐとともに、オホーツク文化を観光資源として有効活用するために、本事業では、オホーツク文化を体感できる面的な観光エリアを「オホーツク遺跡街道」として定義し、その実現に向けた各種調査を実施する。

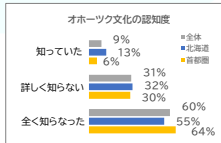
レガシー形成事業の概要と調査活動

下記の項目を実施（全体連絡会議は、各地域にて計3回実施）



【オホーツク遺跡街道構想の骨子】

- オホーツク文化およびオホーツク遺跡街道の概要
- 拠点ごとの現状と今後の目標



※認知度調査の結果（一例）
 認知度調査で、首都圏在住者が6%（北海道13%）となり、知識層には、ある程度認知されていると推察。対し地元網走での認知は全体の25%、「全く知らない」人は35%という結果。地元からの認知度向上策が必須。

※全体連絡会（準備会）の構成メンバー
 国、北海道、地方自治体（3市1町）、観光団体・協会、民間企業、博物館関係者（学芸員）など

オホーツク文化の概要

オホーツク文化は、北海道の北海岸、樺太、南千島の沿海部に栄えた海獣猟漁猟民族の文化で、その担い手であるオホーツク文化人は、北海道にいた縄文人や擦文人とは異なり、暖かで豊かな北海道へ南下した異民族であると考えられている。オホーツク文化は、前、中、後期の3区で整理され、前期は、宗谷方面から利尻・礼文、中期は、現在の枝幸町と網走市が中心となった。後期は、ウトロ、標津、根室まで南下し、トビニタイ文化へと変容しながら、その後のアイヌ文化の形成に深く関わっていく。

オホーツク文化の人々は、海岸沿いに集落をつくり、漁業、海獣狩猟、イヌやブタの飼育をして暮らし、大陸や本州との交易も行ってた。また動物の牙などから優れた彫像などを作るなど、当時の豊かな生活が想像される。住居は地面を五角形、あるいは六角形の竪穴住居に住み、その中にクマの頭骨を祀るなど、動物に対する儀礼の痕跡が認められる。



オホーツク遺跡街道とは

オホーツク文化を始めとした地域の「歴史」「文化」を体感できるエリアであり、多くの史跡・遺跡に加え、その地域に根ざした『食』や『人』を通じて、その地域の風土や自然との関わり方、精神性などを面的に体感できる観光エリアとする。史跡・遺跡等をつなぐルート形成にとどまらず、オホーツク文化に関連のある各種施設や飲食店、体験コンテンツなども盛り込み、地域の方々とも交流することにより、この地域の特性をより感じられるようにすることで、国内他地域との差別化を図り、地域における新たな観光資源とする。

オホーツク地域は『流水』の恵みによる豊かな海と野山の自然の恵みに支えられ人々が暮らししてきた。今日のオホーツクに住む人々にもその感性が引き継がれている。オホーツク遺跡街道の形成を進めることにより、このような先人の自然観や文化的な感性、食文化などを観光振興に活かすことを目指す。

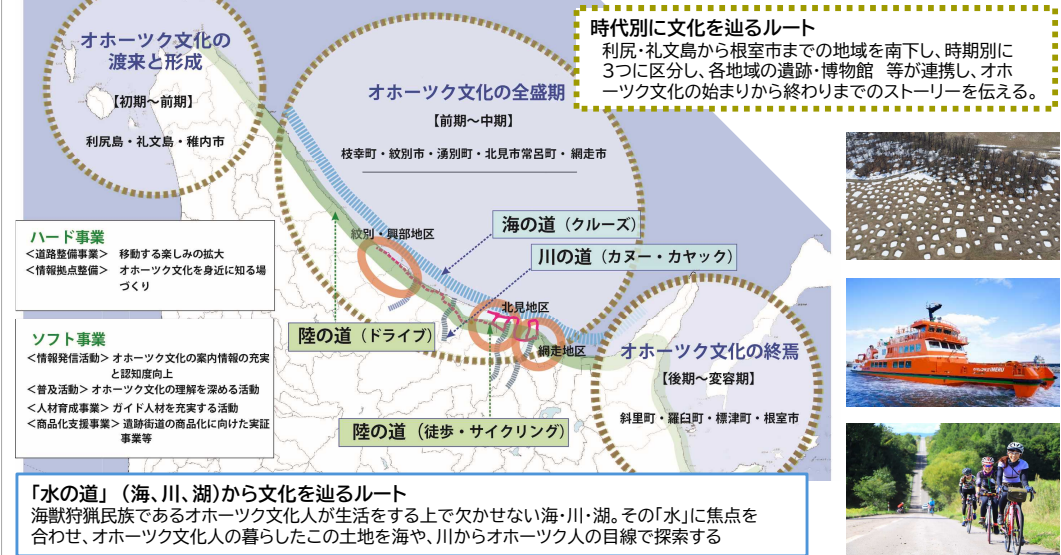
【訪れる人へ伝えたいもの】

- ①オホーツクの人々が長い年月にわたり紡いできた文化と**生命のつながり**にふれる
- ②流水やオホーツク海が生み出した豊かな海の幸を中心とした**食文化**にふれる
- ③**地域の人々との交流**により、オホーツク文化の“今”にふれる



オホーツク海沿岸全域をオホーツク遺跡街道の対象エリアに設定し、各拠点エリアの充実、長距離トレイルの計画など、長期的な視点からの街道の実現を目指す。はじめは興部町から網走市迄の範囲、次年度以降、範囲を拡大予定。本事業は、オホーツク文化を中心とした観光資源で構成するが、エリア内には、縄文・擦文・アイヌ文化の遺跡も多く存在するため、これらの資源も活用し、奥の深い魅力的なエリア形成を目指す。

ストーリー作りとルート形成の考え方の例



【水の道】（海、川、湖）から文化を辿るルート
 海獣狩猟民族であるオホーツク文化人が生活をする上で欠かせない海・川・湖。その「水」に焦点を合わせ、オホーツク文化人の暮らしがこの土地を海や、川からオホーツク人の目線で探索する

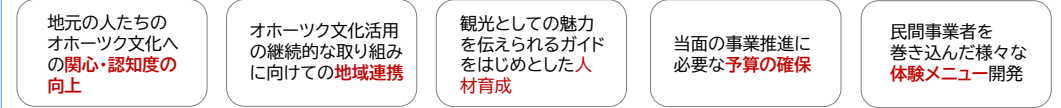
専門家による提言

オホーツク文化を生かした新たなまちづくり
 2022年4月から文化財保護法が改正され、市町村が独自の「文化財保存活用地域計画」を策定することが求められている。地域主導で、「場所」「もの」「人」を有機的に関連付けた立体的なオホーツク文化を描き出し、新たなまちづくりへと繋げていくことが重要。オホーツク文化の海が育んできた歴史的な広がりの中で、人々はどのような物語を紡ぎ、何を生み出してきたのか、実際の場所で、本物を目にしながら肌で感じることができるように、「み・ち・あ・た・ま」という言葉を提唱する。
 （オホーツク遺跡街道構想 メインアドバイザー／文化財サポート田村雅彦氏）

- ▶地域の自然を**見**てもらい(み)
- ▶歴史を**知**ってもらい(ち)
- ▶様々な場所を**歩**いてもらい(あ)
- ▶地域ならではの自慢の食材を**食**べてもらうこと(た)
- ▶**学**びにつなぐ(いて)くま)



実現に向けた主な課題



事業の推進計画

- (1)事業推進体制の構築
 「オホーツク遺跡街道推進ネットワーク」を設立。事務局は紋別市。当面は網走、北見、紋別・興部地区を対象として活動する。構成員は、民間事業者・専門家等に加え、対象地域の市町村・観光協会等。
- (2)オホーツク遺跡街道推進ネットワークの今後の活動について
 今年度とりまとめた「オホーツク遺跡街道構想」の内容をもとに活動していく。オホーツク遺跡街道実現や文化に関する情報共有を基本とし、「教育委員会（博物館）・民間事業者・地域住民等との連携」、「オホーツク文化の認知度向上や受入環境整備」も検討していく。

